

日本映画大学学生満足度調査結果【2023年度】

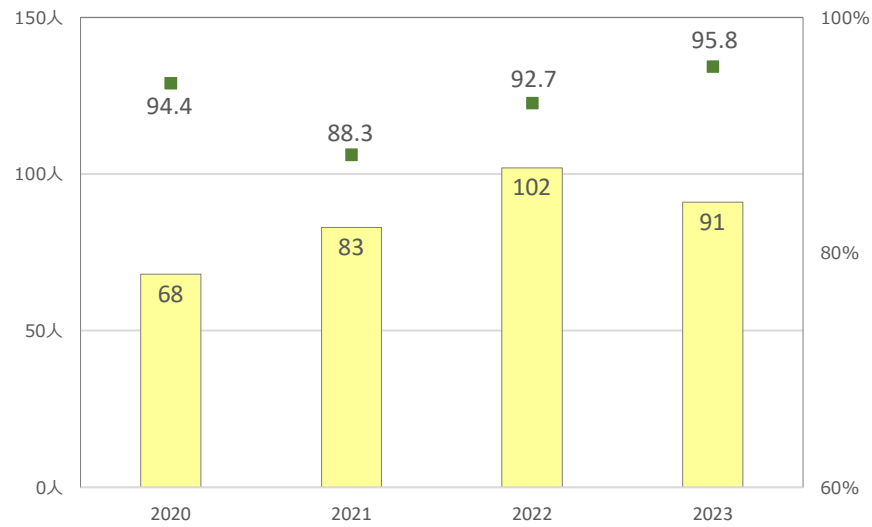
日本映画大学では、毎年3月に卒業する4年次生を対象に、4年間の学生生活を振り返った調査を実施しています。
ここでは、過去3年度分（一部は2年度分）の結果を掲載することで、経年での変化を確認することができるようにしています。

【調査概要】	調査実施日	2024年3月19日（卒業式・学位記授与式当日）
	対象者	4年次卒業生
	対象者数	95名
	回答者数	91名（回答率95.8%）
	回答方法	調査票による回答

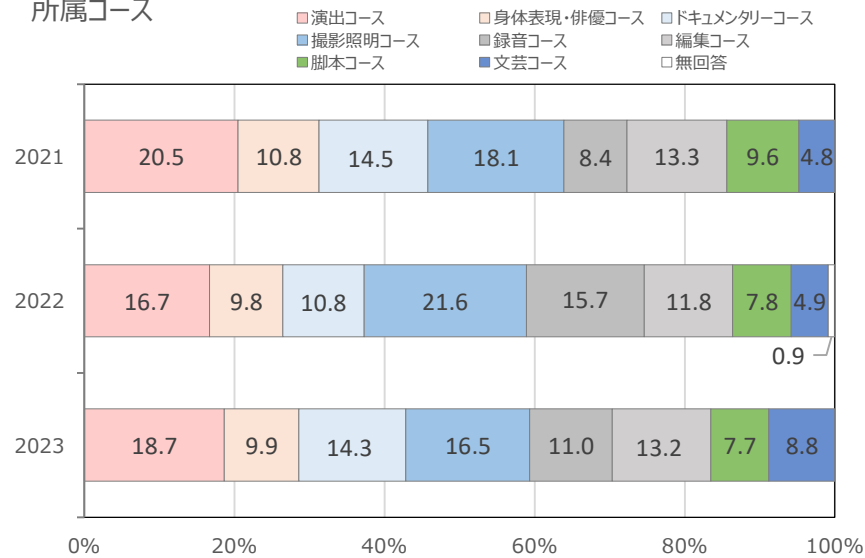
- 本調査は、毎年卒業式当日に実施しています。出席者のほぼ全員が回答しているため、高い回答率となっています。
- 「本学が第一志望だった」学生が6割にのぼっており、コロナ禍前の割合に戻っています。また「入学時に将来の仕事へのイメージ」を明確に持っていた学生の割合も増加傾向にあることから、将来への明確なイメージを持って本学に入学する学生が増えてきているといえるでしょう。
- 「満足度」において、全18項目のうち16項目で「とても満足」と回答している割合が過去2年を上回っています。特にコースに関する項目のうち、「入りたいコースがある」「希望のコースに入れる」「コースで充実した時間が過ごせる」では、「とても満足」と回答した割合が5割を超えていることから、コースでの学びをいかに重視していたかがうかがえます。また、「まったく満足していない」と回答した項目も7項目しかありません。自由記述にも見られますが、入学時より新型コロナウイルスの影響を受けてきた学生たちにとって、感染対策を講じながら全対面での授業を続けてきた本学の姿勢が一定程度支持されたものといえるのではないのでしょうか。
- 「悩み事の解決」では、カウンセラーに相談する割合は低いままですが、2023年は3割を超え年々増加傾向にあります。2024年度からは新百合ヶ丘校舎でもカウンセラーによる相談受付を始めていますので、利用増が見込まれます。「教職員に相談した」割合も年々増えており、「満足度」における「事務職員と話しやすい」割合も94%と、学生にとって教職員が身近な存在として認知されていることがうかがえます。悩みを抱えている学生からの窓口を複数用意することは休学や退学を予防するうえでも有効であることから、カウンセラーと連携しながら充実した学生生活を送れるよう支援をつづけていきます。
- 「達成度」においては、「学外の様々な活動」への取り組みは依然として低く、また「将来への準備」も低い割合となっています。実習の授業が多いこともあり、なかなか学外活動にまで目を向けられないというのが映画大学生の現状と言えそうです。
- 「総合満足度」は、8割を超える学生が「たいへん満足」「満足」と回答しています。そのうち「たいへん満足した」と回答した割合が3割を超えていることは特筆すべき点といえるでしょう。
- 本調査は、2020年度入学生がおもな対象となります。この年度に入学した学生たちは、入学早々に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により入学式は中止され、授業開始が6月に繰り下げられ、前期はオンラインでの座学のみ、9月から対面での授業を再開したもののコロナ禍前の実習授業とはおおよそかけ離れた授業を余儀なくされました。系・コースに分かれた2年次以降も感染拡大の影響は収まらず、大学での生活や学修において最も重要な時期となる学年でのさまざまな制約は、学生たちに大きな不安とストレスをもたらしていたことは自由記述での「コミュニケーションの大切さ」「仲間づくり」「協調性」といったコメントからももうかがい知ることができます。100年に一度といわれる大災厄のなかでの大学生活で、85%を超える学生が「総合満足度」において「たいへん満足した」「満足した」と評価していることは、教職員にとってたいへん心強いものであり、なにより安堵する結果でもあります。コロナ禍後の一時的な満足度の上振れとなることのないよう、満足度の高い学修を継続的に提供できるよう今後も努めていきます。

基本情報

回答者数・回答率

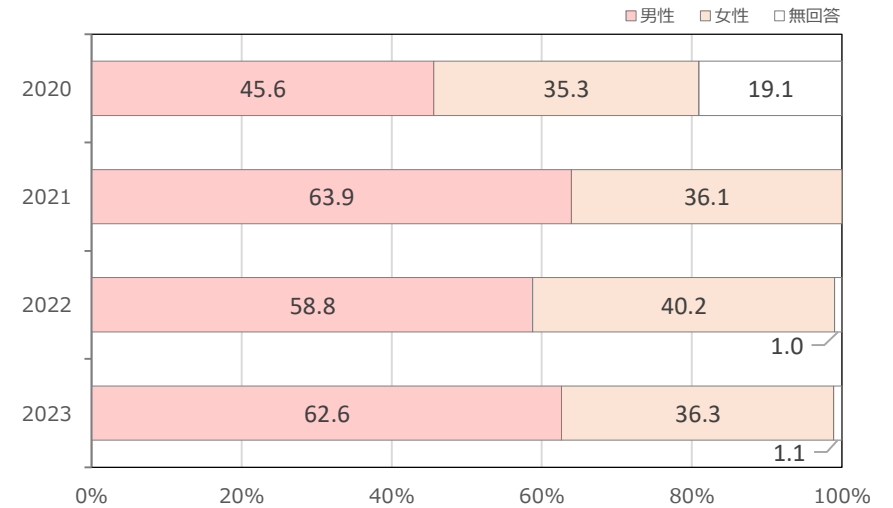


所属コース

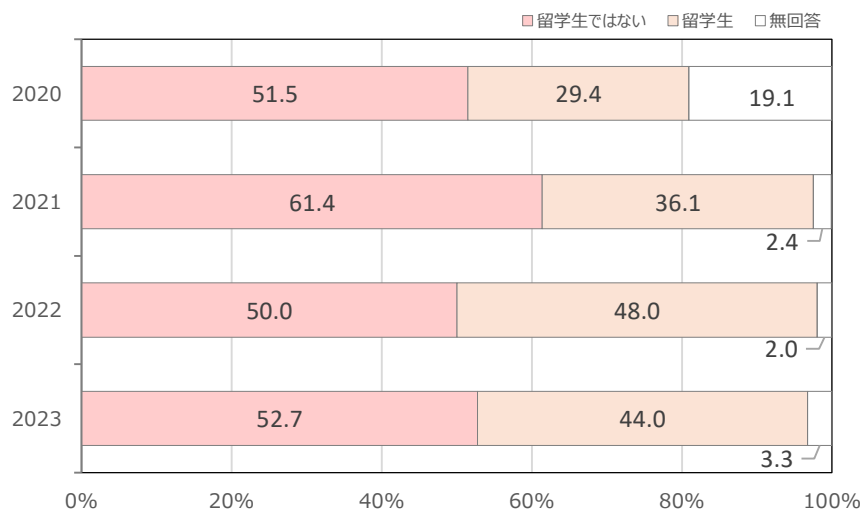


※2021年度からの調査項目

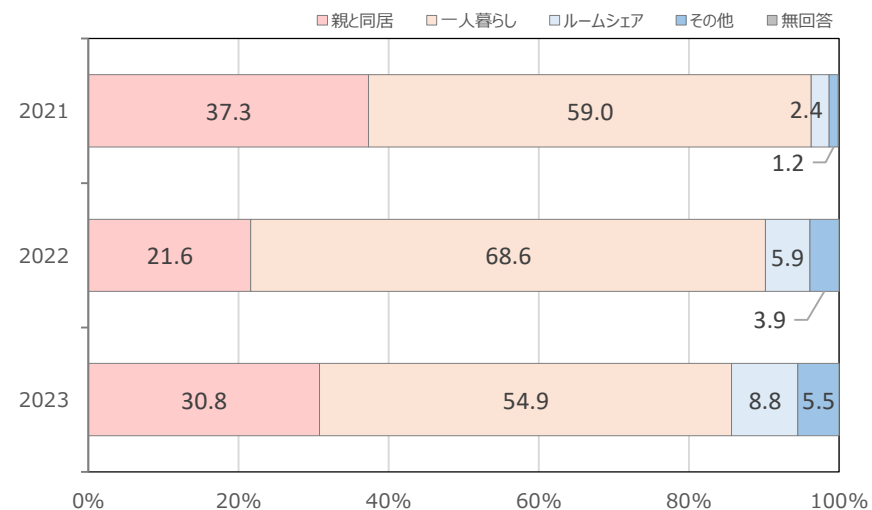
性別



留学生ではない/留学生

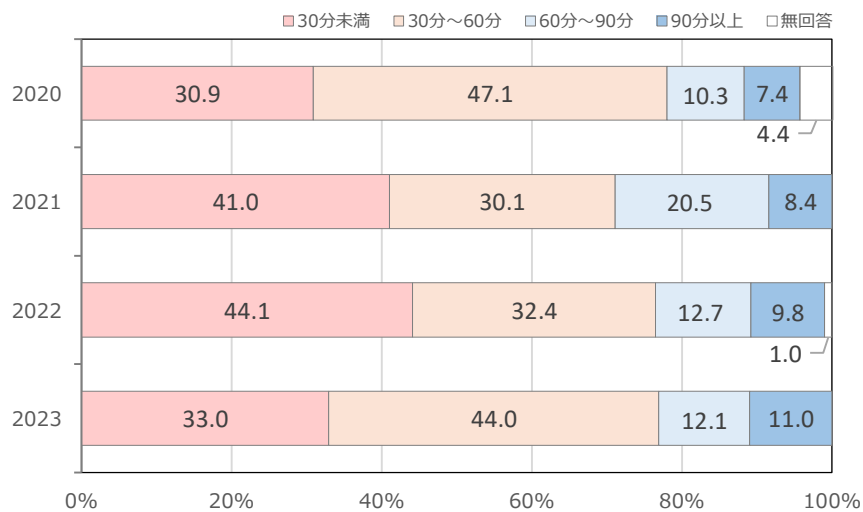


4年間の平均的な住居

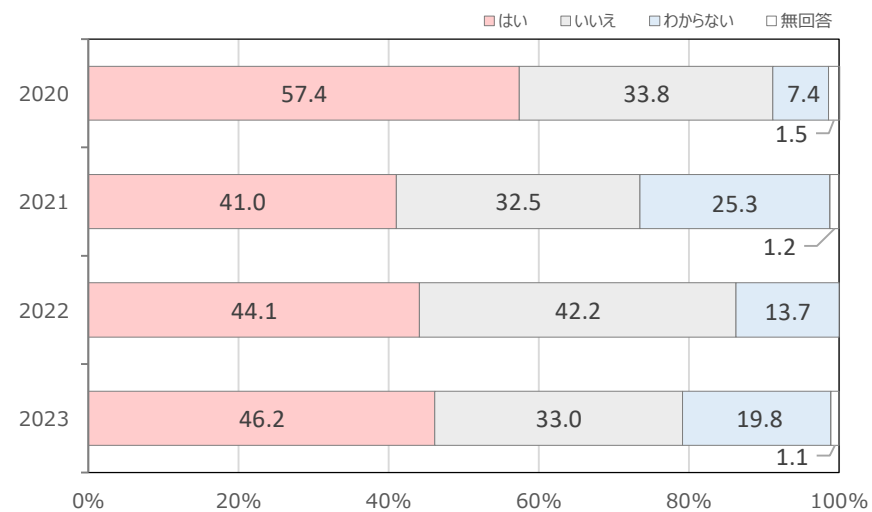


※2021年度からの調査項目

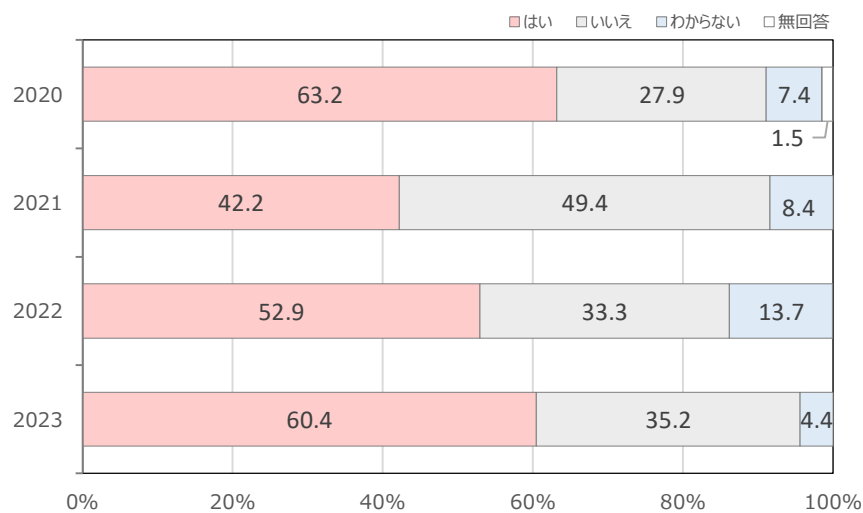
4年間の平均的な通学時間



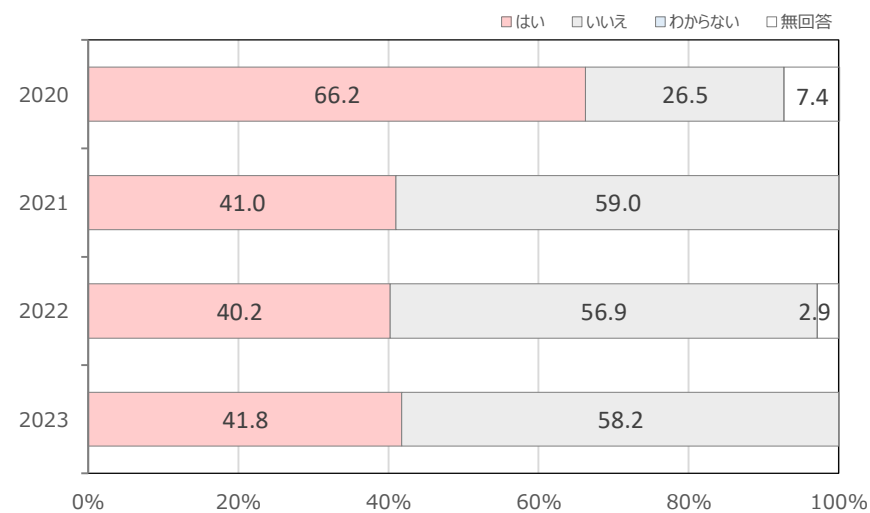
入学時に将来の仕事についてのイメージが明確だった



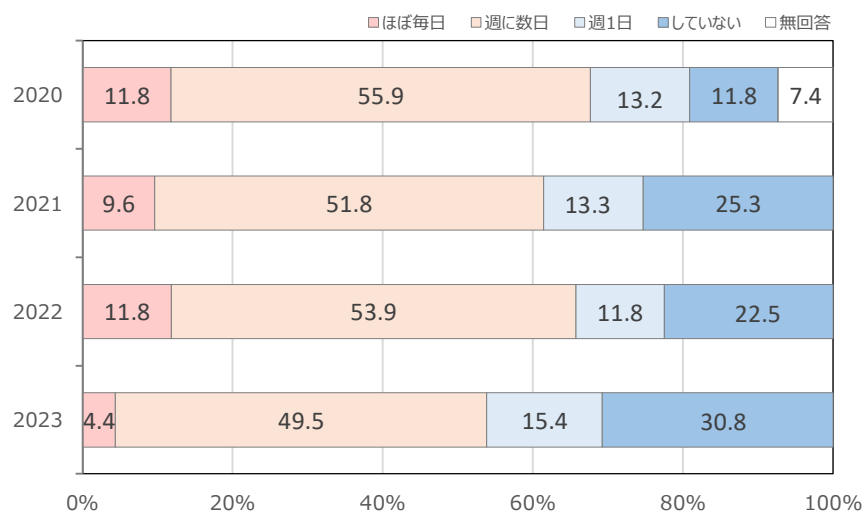
本学が第一志望だった



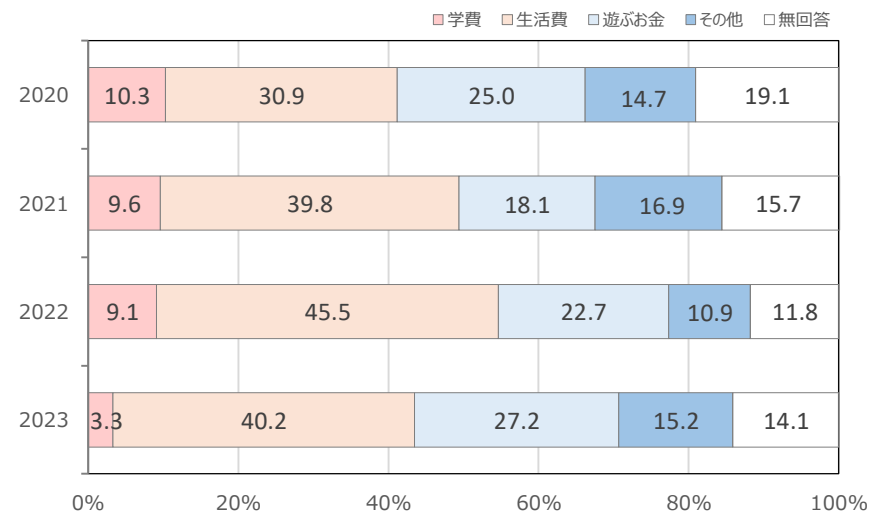
オープンキャンパスなどの行事に積極的に参加した



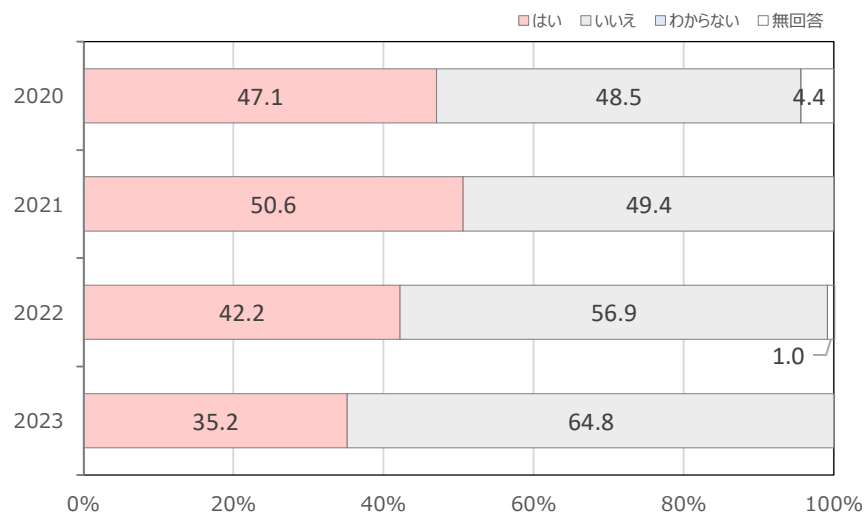
4年間の平均的なアルバイトの頻度



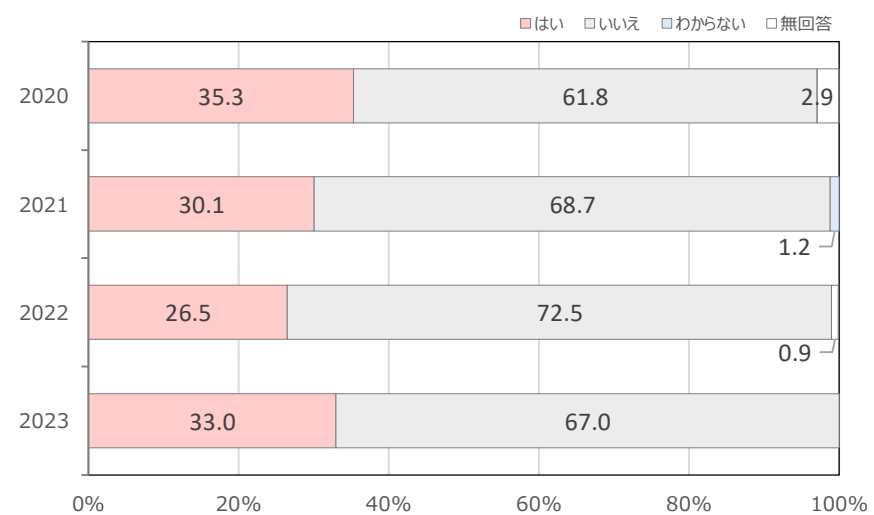
アルバイトの目的



生活費や学費で経済的不安がありましたか

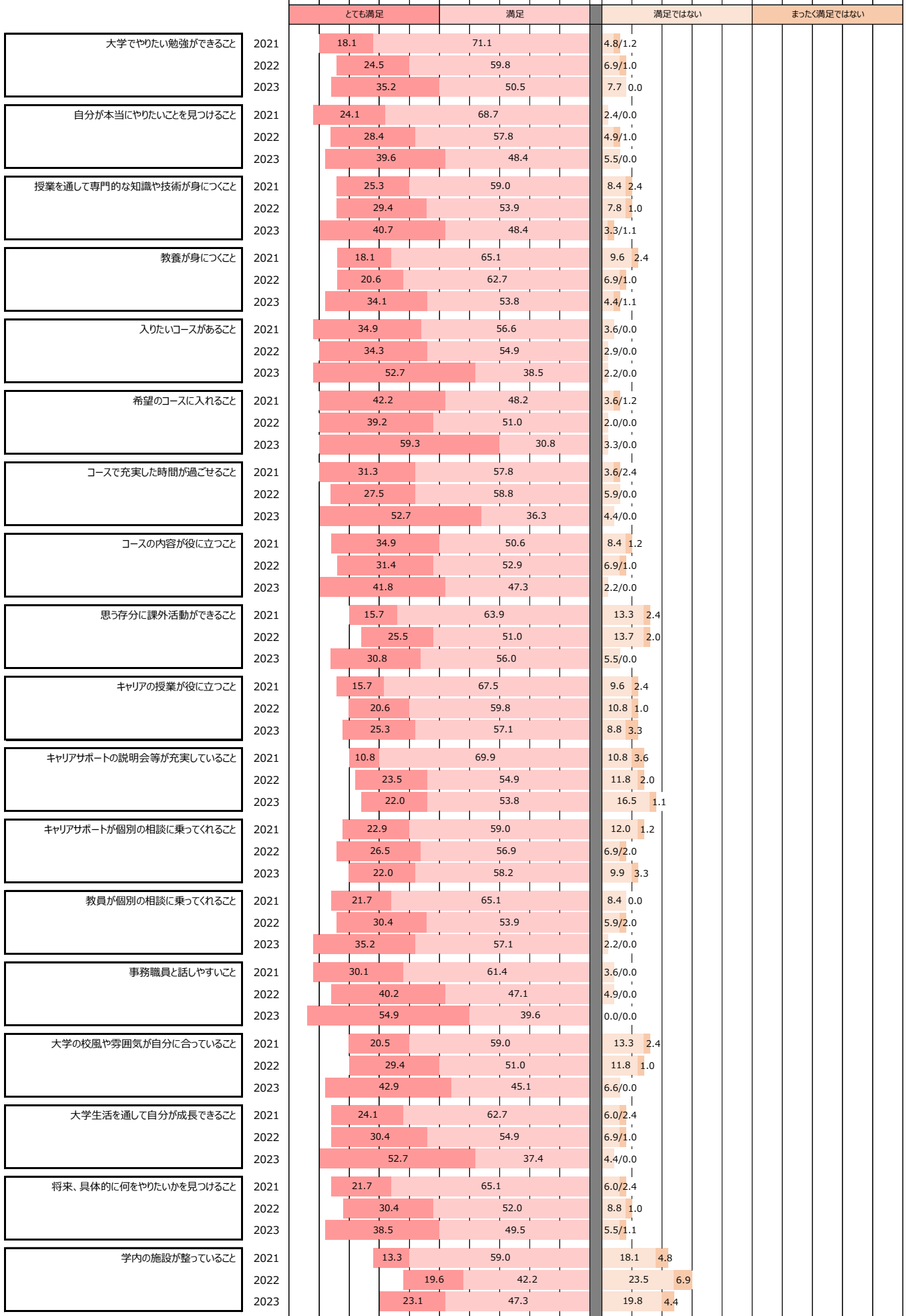


奨学金は受給していましたか

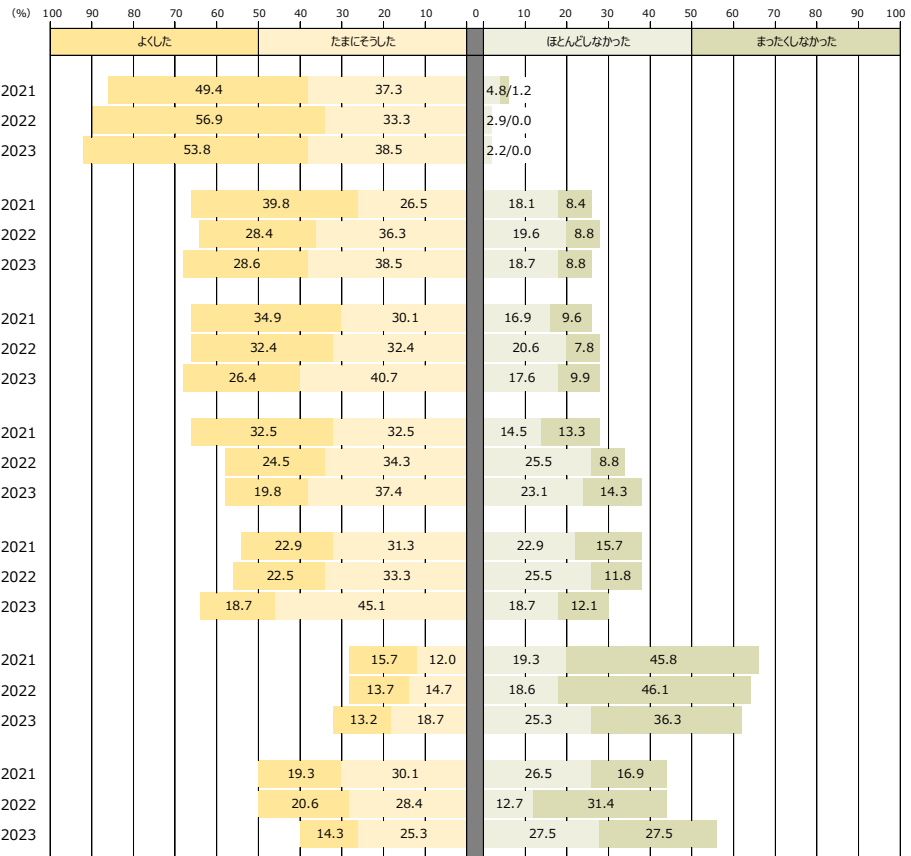


満足度

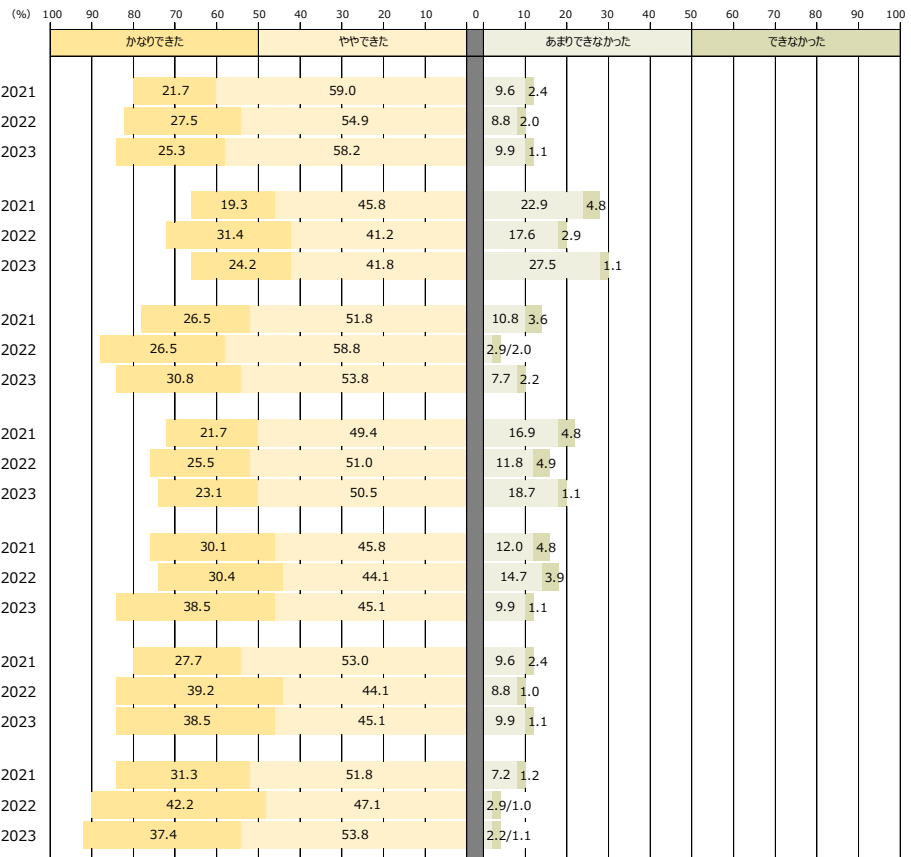
(%) 100 90 80 70 60 50 40 30 20 10 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100



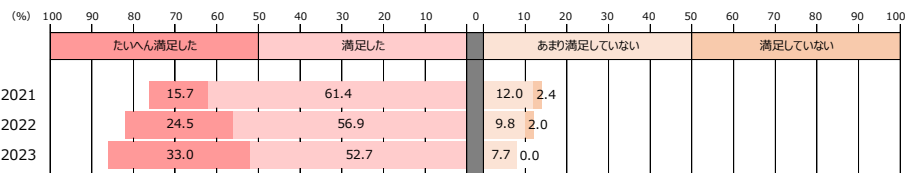
悩み事の解決



達成度



総合満足度



大学生活で重要だったこと（自由記述）

- 自分の将来につながるかどうか。なんだかんだ実現した（演出）
- いろいろな現場に参加し、いろいろな人を知るのは大事（演出）
- 一步一步確実に前に進めること（演出）
- 努力、人間関係（演出）
- 講師とのコミュニケーション。やみくもに話すのではなく、目的や意志を持って話すことをある程度習慣づけるようになったかもしれない（演出）
- 映画についての知識を身につけることが最も重要だった。座学や実習で様々な知識を身につけることができた（演出）
- 何事にも積極的に取り組むこと。このことが学校で身についたことだと思う。あとは限界までがんばること（演出）
- 人との協調性。3年では協調性が不足していたので、その反省を活かし4年では実現できた（行動に移せた）のではないかなと思う（演出）
- コミュニケーション能力。積極性（身体表現・俳優）
- 技術を身につける（身体表現・俳優）
- 交友関係を広めること（身体表現・俳優）
- 4年間過ごして「やりたいことをやりたい」と積極的に発言していくことが重要だと感じた。結局待ちの態勢でいても最低限のことしかできない（身体表現・俳優）
- 大学生活において最も重要だったことは「自身の将来をイメージできるようになるか」でした。大学の授業はもちろん、OBの方とのつながりを通して実現することができた（身体表現・俳優）
- 人とのコミュニケーションをとることが重要だと思いました。コミュニケーションができていないと実習が進まなかったりするので（身体表現・俳優）
- 時間を有効に使うこと。早く準備すること（身体表現・俳優）
- 反省力と困難を解決する精神（身体表現・俳優）
- 自律と熱心（ドキュメンタリー）
- 文化や知識については自分で学ぶことはとても重要だと感じた。大学はもちろんありますが、やはり足りない、限界があると感じました（ドキュメンタリー）
- 留学生向けの日本語サポートがあること（ドキュメンタリー）
- 作品制作の経験（ドキュメンタリー）
- 大学生活を振り返って、やはり人間を理解する能力が一番重要だと思う。今はまだまだできてないが、少し成長したかなと思う（ドキュメンタリー）
- 友達を作ること。大学生活を楽しく過ごすためには友達が必要。楽しい時一緒に過ごし、悩んでいる時も友達に相談すると心がリラックスできる（ドキュメンタリー）
- 自分の意見を明確に表すこと（ドキュメンタリー）
- 「卒業後に社会人として独立しても役に立つ知識が身につけられるか」が一番大事だったが、卒業するまでの間にプロの現場に行ってみたらほとんど大学で学んだことであり、すぐ慣れることができたので成果があった（ドキュメンタリー）
- 大学での勉強を通して完全に映画が好きになって、映画を作りたくて、映画の仕事をしたくなっています。偶然の選択で、本心を見つけられたのは面白いと思っています。感謝です（撮影照明）
- 仲間を作ること。将来進む道を決めること。人脈を広げること。協力し合うこと（撮影照明）
- 幸せが最も重要です！（撮影照明）
- 実習。映画を観ること（撮影照明）
- 将来につながる技術の基礎を身につけて学習すること（撮影照明）
- あいさつ。責任（撮影照明）
- コミュニケーションをとること（撮影照明）
- 将来どんなことをやりたいかを見つけることを大切にしてきた。入学時とは違うことになったが、自分を見つめ直して生活できたと思う（撮影照明）
- 仲間との連携力、コミュニケーション。実習の途中から徐々にチームの雰囲気がよくなっていった（撮影照明）
- 誰かと（仲間と）1つの作品を作り上げる楽しさを実感できた。実習が楽しかった（撮影照明）
- 録音についての知識を勉強して、身につけてとても楽しかった（録音）
- 技術だけでなく人として成長できた気がした（録音）
- 将来に不安がないようにしっかり準備すること。友人関係を広げる（録音）
- 将来自分が納得する場所で活躍できるように知識や技術を身につける。友人や同期と楽しく充実した生活を送ること（録音）
- やりたいことを全部試すことができたし、趣味や考え方が似ている仲間ができ、楽しく過ごす（録音）
- 自分を見る、自分の感情を見る時間と空間がある。色々な人と出会うこと。技術だけではなくて本当に教育者の自覚を持っている先生も重要だと思う。私が所属しているコースにはそういう先生がいる（録音）
- 4年間を通じて大人数でものづくりをすることはとても自分の中で勉強になりました。専門的な知識はもちろんのこと、人とコミュニケーションをとりながら仕事をすることは、これからの人生にとってもためになると思った（編集）
- やりたいことを見つけて卒業した後にプロとして働けるようにする（編集）
- 学内での自分の立場を見つけること。困っている人がいたら助ける（編集）
- 専門的な知識が身につく、映画への興味が深くなった。映画制作の中で自分のこだわりをつきつめ、他の人とのコミュニケーションもはかることができた（編集）
- 技術や知識が身につくか（編集）
- 学校で知識を勉強して友達ができ、将来に役立つスキルが身についたことはとてもうれしい（編集）
- 失敗を経験させてくれたこと（脚本）
- 人間関係：1年はうまくいかず自分の未熟さを痛感した。コース選択をしてからグループワークも増え、他者を理解しようと努めた。1年よりは改善されたと思う（脚本）
- 高校まででは学べない映画を専門的に学べることを重要視していました。そして、専門的知識を身につけ、自分の表現したい世界をより多くの人に楽しんでもらえるようになりたいと思い4年間を過ごしてきました（脚本）
- 早めに人間関係を作り、横のつながりを増やす（脚本）
- コースでの活動と時間（文芸）
- 人生経験を積むこと（アルバイト）。友人を作ること。物を作るということ（文芸）
- 職員と積極的にコミュニケーションを取ること。知らないことは追求して知ること。協調性（文芸）
- 人間関係を大切にして、してもらったことを忘れない。コースに関わらずコミュニケーションを取っておく。先生とコミュニケーションを取り小さなことでも質問しやすい関係を築いておく。そうすると就職やメンタルの面でも安定しやすくなる（文芸）
- 友人を作ること（文芸）
- 好きなことが学べること。映画はもちろん、小説を書くことについてもあてはまる。学びのモチベーションに直結するため、非常に重要であると認識している（文芸）
- この大学での生活で重要だったことは、身体一つを存分に使って授業に取り組むことです。コロナ禍で始まった1年生では、感染予防に気を配りながら積極的に対面授業に動きました。その後の4年間でも実習や座学ともに身体一つで授業に取り組むことでたくさんの知識を得ることができた（文芸）

実現・満足できたこと、できなかったこと（自由記述）

- やりたいことを見つけたのは一番の喜び（演出）
- 行動を起こしてちゃんと失敗したこと。1人の時間が取れてないこと（演出）
- 実現：監督をできたこと。できなかったこと：人間関係（演出）
- 知らない、慣れないことに全力で取り組めた。尻込みせず当たり前で何とか進み続けられた。他者との関わり。なかなか同級生とはうまく話せなかった（演出）
- 漠然とした映画の仕事に就きたいという思いから、具体的に現場でどんな働きをしたいのか見つけることができた（演出）
- 映画祭などにももっと行けばよかった（演出）
- 就職活動を早めに行動できなかったことが一番の悔い（演出）
- 卒業と同時に新しい世界へ飛び立つ準備ができていなかった。様々な人と関わり、いろいろな価値観を学ぶことができた（身体表現・俳優）
- 身についた（身体表現・俳優）
- 自分のやりたいことに少しでも触れられ、役者として必要なことを学べた（身体表現・俳優）
- 高校までの進路と180度変わった道に進んだので、最初のうちは全てのことが初体験で強い刺激になった。その中には辛いこともありましたが、本質はどれも映画関係なく人間としての成長をうながしてくれるものでした。それに出会えたことが大学で学んだことです（身体表現・俳優）
- 大学の授業以外の活動で自分の将来進みたい道を見つけたことができた（身体表現・俳優）
- 全体的に満足できた（身体表現・俳優）
- 自信を持つこと。日本語が向上したこと（身体表現・俳優）
- 実力と視野が広がった（身体表現・俳優）
- 映画に興味を持ち視野が広がり、自分の作品があること（ドキュメンタリー）
- 実習の時、教科書はない（ドキュメンタリー）
- 人生に役立つ技術や知識を身につける（ドキュメンタリー）
- ドゼミに入ったことが一番満足したこと（ドキュメンタリー）
- 大学では思わなかったことが実現して、とても満足した。俳優として実習に出たこともあって、卒制でプロデューサーとカメラマンとして出たこともあって、自分にとってとても充実した大学生活だった（ドキュメンタリー）
- 礼儀が身についたこと。心を許せる友達ができたと（ドキュメンタリー）
- 仲間も増えて人脈も広がり、協力し合える力がついた。将来はこの道でよかったのかと決めきれなかったことが心残り（撮影照明）
- 協力して実習ができた（撮影照明）
- 基礎技術や撮影に対する考え方、取り組み方を学べ満足できた（撮影照明）
- 実習で頑張れた（撮影照明）
- 4年間仲間とコミュニケーションを取り、1つの目標に向かって取り組むことができた（撮影照明）
- カメラマンを経験できた。人脈が広がった（撮影照明）
- 在学中にもっと現場にでたかった。それを実習に生かしたかった（撮影照明）
- いろいろなタイプの映画の撮影現場に行き、勉強になったことは満足（録音）
- すべて満足できた（録音）
- 友人関係を築くことはとても満足いく結果となりよかったが、将来への不安はぬぐいきれない。今の会社でよいのかという心残りがある（録音）
- 積極的に活動し、満足のいく学校生活を送れた（録音）
- 実習がたくさんあって、自分が本当にやりたいことが見つかった（録音）
- 創作過程の補助方法。あまり気づかなかった演出をちゃんと見ることを学んだ。技術も学んだ。できなかったことはたくさんあった（録音）
- コロナ禍にもかかわらず1年生のときから学校に来て実習に参加できたことは満足できた。就職活動をするのが遅かった（編集）
- 自分の進む道ができた（編集）
- 遊ぶこと。先輩と後輩との関係作り。行事への参加（編集）
- 在学中に自分たちの満足する作品が作れた（編集）
- 希望するコースに入ることができ、技術など身につけることができた（編集）
- 大学で自分の将来を見つけたことが一番楽しかったことです（編集）
- 作品を作れたこと（脚本）
- 卒制のシナリオに選ばれた。具体的なシナリオの技法を身にできなかった（脚本）
- 同じ映画好きの仲間ができたのがこの大学に入って大きな驚きでした。おかげで4年間楽しく過ごせました。また脚本の指導も丁寧で自分が書きたいことを伸び伸びと書くことができたのもよかった（脚本）
- 時間を守れませんでした。脚本のフォーマットをカンペキに覚えられた（脚本）
- コースで先生やメンバーと議論することができたこと（文芸）
- 一人である程度生活ができたこと。できなかったことは納得のいく作品を書こうとしなかったこと（文芸）
- 先生と話せたこと。コースの皆と作品を通して仲が深まったこと。皆の作品を読んで正直に言い合ったこと（文芸）
- 満足できたこと：先生が優しく、距離が近かったこと。このおかげで制作面、そして進路の面でも相談しやすく、特に後半は心強かった。できなかったこと：制作実習の際に感覚で否定されることが数回あった（文芸）
- 実現できたことは自分で決断をし、それに対する責任を持てたこと（文芸）
- 執筆の技術が学べたこと。今後も何かしらの形で執筆は続ける予定なので、その解像度が高まったことは非常に喜ばしいこと（文芸）
- 生徒や教授との距離感や専門的な知識を得られたことに満足しています。ゼミではみんなで話しあう機会が多く一人一人と心を分かち合うことができました。映像制作の大学でありながら、文芸としても質の高い授業を提供していただいたことにたいへん満足しています（文芸）